

開通80周年 親しまれてきた鉄道

明知鉄道特集

昭和9年に開通した国鉄明知線を引き継いだ現在の「明知鉄道」は、こととして通算で80周年を迎えます。通学や買い物などの足として、市民に親しまれているばかりでなく、のどかな風景を走り抜けるローカル鉄道として、観光の目玉の一つにもなっています。

一度は廃線の危機を迎えたこともあるこの鉄道。沿線のみんなの愛着と熱意のおかげで、80年間走り続けることができています。ここでは、明知鉄道の歴史や利用状況、利用者を増やすための取り組みなどについて紹介します。

□問い合わせ 商工観光課 ☎ 26-2111 (内線522)



沿線に広がる多くの光景

明知鉄道は、昭和9年に開通した国鉄明知線を引き継ぎ、昭和60年11月16日に第三セクター方式で再出発しました。恵那駅から明智駅までは、25.1キロ。その間には、「東野」「飯沼」「阿木」「飯羽間」「極楽」「岩村」「花白温泉」「山岡」「野志」の9駅があります。

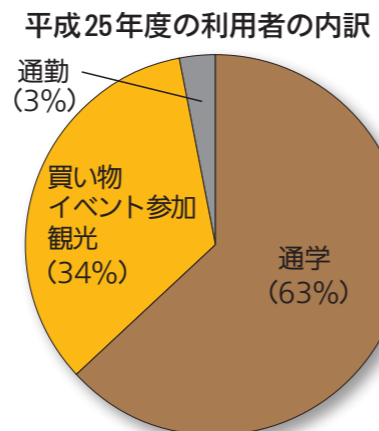
光景が広がります。阿木川の上流に向かって、高度を上げながらいくつかの谷を横断。中津川市に入ると、日本一急勾配の飯沼駅と阿木駅を経由して、再び恵那市に戻ります。800年の歴史を秘めた岩村城のある岩村駅では、すれ違いの列車と交差し、日本一の細寒天の生産地の山岡町に向かいます。小里川が形成する野志峠を越えれば、日本大正村のある終点の明智駅へ到着となります。車窓から眺める光景は日本の原

風景、まさに明知鉄道は走る田園空間博物館です。

明智・恵那間を1日14往復

明知鉄道は全線が単線で、車両は電気ではなく、ディーゼルエンジンで走行しています。途中、岩村駅で上りと下りの列車がすれ違います。運行は全て、明智駅から恵那駅行き(上り)と恵那駅から明智駅行き(下り)です。平日は14往復、土曜日と休日は13往復しています。保有している車両は6両。いずれも全長が15.5mで、トイレはありません。3両は二人ずつ向かい合う席を配置した車両、残りの3両は、窓側に長い座席を配置した車両となっています。またラッピング列車として、広告を宣伝できる車両が3両あります。

鉄道利用者の約6割は学生



平成25年度の利用者は、45万4398人。開業翌年度となる昭和61年度の約90万人を境に、徐々に減少しました。平成18年度には、半減以下の41万人まで落ち込みましたが、その後は、さまざまな取り組みによって増加傾向になっています。

利用者の63%は、高校生などの学生で、通学に利用しています。沿線には、4校の公立の高等学校や特別支援学校が点在。中央本線乗り継いでの通学も可能です。学生以外の利用者は、高齢者の買い物や料理列車を中心とするイベント列車に参加した人たちです。近年は、岩村町の歴史的建造物などの人気が高まっており、ハイキングやウォーキングを兼ねた利用も多くなっています。

明知鉄道の路線図



明知線・明知鉄道の歴史

昭和9年	国鉄明知線（大井駅～明知駅）全線開通
昭和32年	客車と貨車を分離するためレールバスを導入
昭和38年	「大井駅」から「恵那駅」に駅名を改正
昭和47年	C1274 蒸気機関車を恵那市に貸与
昭和48年	C12244 蒸気機関車を明智町に貸与
〃	蒸気機関車を完全にディーゼル機関車に変更
昭和56年	貨物列車を廃止
昭和60年	明知鉄道株式会社を設立
〃	第三セクター明知鉄道株式会社開業
〃	「明知駅」から「明智駅」に駅名を改正
昭和62年	沿線ハイキングの開催
〃	ヘルシートレイン（寒天列車）の運行開始
平成3年	東野駅と阿木駅の間に飯沼駅を新設
平成6年	山岡駅と明智駅の間に野志駅を新設
平成11年	明智駅が「中部の駅百選」に認定
平成13年	岩村駅が「中部の駅百選」に認定
平成20年	飯羽間駅と岩村駅の間に極楽駅を新設
平成22年	明智駅と岩村駅の間でDMV 実証実験
平成25年	県の「明日の宝もの」に認定
〃	C12244 蒸気機関車が明智駅に移設



▲昭和60年に開業した明知鉄道を祝う



▲女性の人気を集めたヘルシートレイン



▲国鉄明知線としての別れを惜しむ（昭和60年）



▲蒸気機関車の廃止直前（昭和48年ごろ）



▲明知線の開通当時（昭和9年ごろ）

翌年からは、急勾配を得意とするディーゼルカーが走るようになりました。

第三セクターで再起図る

自家用車やトラックが普及し始めると、鉄道の利用は徐々に減っていききました。昭和43年、国鉄諮問委員会が赤字ローカル線の廃止について、意見書を提出。国鉄だった明知線もこの対象となり、廃止か自動車輸送に切り替えるべきとされました。

昭和55年の国鉄再建法では、バス路線転換となる基準は、営業距離が30キロ以下、1日当たりの輸送人員が2000人以下とされました。明知線は、営業距離25・1キロで、当時の過去3年間の平均輸送人員は、1717人。「あと300人増やそう」と利用者増加運動が展開されました。

しかし、国鉄として生き残ることはできず、昭和59年、明知線特定地方交通線対策協議会で、第三セクター方式による地方鉄道として再起を図ることになりました。昭和60年、県と地元市町村が65・5割、民間が34・5割出資し、現在の「明知鉄道株式会社」が誕生。以来、第三セクター明知鉄道として、今日まで続いています。

グルメリ列車を次々に運行

明知鉄道では、徹底した経費削減と、増収に向けてのさまざまな企画が行われてきました。

開業間もない昭和62年、山岡町特産の細寒天を素材にした寒天料理を車内で提供する料理列車「ヘルシートレイン」を初めて運行。これが広く知られ、全国の地方鉄道にも影響を与えました。

その後、季節の風景を楽しむながら地元の味覚を楽しめる料理列車（グルメリ列車）が次々に運行されました。「お花見弁当」や「山菜弁当」「えなハヤシ御膳列車」「枥酒列車」などです。特に人気があるのは「寒天列車」と「きのこ列車」です。料理列車は、急行に食堂車を連結しますが、最大で4両編成になることもあります。昨年度は、303本を運行し、7421人の利用者がありました。

その他、自転車車を車両に乗せて途中の駅からサイクリングを楽しむ「チャリンコ列車」や、駅から駅を歩く「沿線ウォーキング」なども開催しています。また列車の愛称を命名する「ネーミングライツ」を募集したり、会議や講座を貸し切り車両で行ったりする事業も行うなど、利用の機会の拡大を図っています。

※ DMV =デュアル・モード・ビークル。線路と道路の両方を走ることができる車両

明知線と明知鉄道の80年の歴史は、昭和と平成の変革の時代を表したものであります。かつては、移動や運搬手段として活躍したこの鉄道。自家用車の普及とともに利用者の減少に歯止めが利かず、国鉄から第三セクターでの運営に形を変え、今日の明知鉄道があります。

時代を反映した軌跡

路線の構想は静岡県まで

大井駅から明智駅までを結んで昭和9年に開業した明知線。計画当初は、さらに南に下り、遠州（静岡県）まで通じる国防上重要な鉄道として位置付けられていました。大正11年に公布された「鉄道施設法別表第63号」では、恵那駅を起点にすると、豊田市稲武町、愛知県新城市、浜松市天竜区三俣町を経て、静岡県掛川市まで結ぶ壮大な構想が示されていました。

大正12年、関東大震災が発生し、この計画は無期延期となりました。その後、陳情が続けられ、昭和初期に計画が復活しましたが、路線は大きく変更。明知線は、現在の区間で建設されることになりました。一方、静岡県側では、東海道線のバイパス路線として、掛川から新所原（静岡県湖西市）までの67・7キロを建設。現在は、天竜浜名湖鉄道として運営

されています。

昭和9年6月に全線開通

明知線は、昭和2年に大井と明知（明智）間の鉄道敷設が決定され、工事が開始されました。昭和8年には、大井と阿木間が開通し、昭和9年1月に岩村まで延伸されました。同年6月には、岩村と明智間の工事が完了し、全線開通となりました。

明知線は、最大傾度1000分の33の急勾配があり、半径200メートルのカーブが連続する路線。開業当時は、軽量のC12型蒸気機関車が採用され、客車と貨車をつないだ混合列車を引っ張りました。当時は、貨物輸送も重要な役割となっていました。一日の運転は7往復で、片道は1時間20分ほどかかっていました。昭和32年には、客車と貨車を分離するため、レールバスを導入。蒸気機関車よりも速く、煙突からの排煙が出ないとあって歓迎されました。

明知線開通 80周年記念 の主な事業

開通 80 周年記念の事業として、明知鉄道に
関係した、たくさんの催しが
計画されています。

詳しくは、下記へ問
い合わせてください。

□問い合わせ
明知鉄道株式会社
☎ 54-4101、ウェブサイト
(<http://www.aketetsu.co.jp/>)

6月

●アユ料理と花白温泉 ▷とき=8月31日(日)まで(月曜日運休)▷料金=5,000円

●寒天列車 ▷とき=9月30日(火)まで(月曜日運休)▷料金=5,000円

●明知鉄道で行く「くしはら温泉ささゆりの湯」会席料理 ▷とき=11月30日(日)まで▷料金=4,000円

●フォトコンテスト ▷とき=平成27年1月31日(土)まで▷題材=①車窓から見た四季の風景②外から眺めた車両風景③懐かしいC12244号蒸気機関車の姿

●えなハヤシ御膳列車▷とき=19日(木)▷料金=4,000円

●地域公共交通シンポジウムと「明知鉄道まつり」▷とき=21日(土)▷ところ=明智文化センター

●ヘルシーハウスの愛称披露・イベント▷とき=未定

7月

●夏休みちびっ子大集合▷とき=7月19日(土)~8月31日(日)▷内容=①親子ふれあい列車(家族同伴につき小学生以下が無料)②駅長の帽子で記念撮影

- 1 明知線で行く観光施設(市内の観光施設巡り)
- 2 ①車両と綱引き(明智駅)②タブレット閉そく見学(岩村駅)
- 3 明知線計画ルートを探る歴史の旅(天浜二俣駅の見学)
- 4 山岡寒天の里(山岡駅とイワクラ公園でイベント)

8月

9月

●きのこ列車▷とき=9月7日(日)~11月30日(日)(月曜日運休)▷料金=5,000円

●寒天列車▷とき=9月30日(火)まで(月曜日運休)▷料金=5,000円

●恵那栗ポロタン列車▷とき・料金=未定

●明知鉄道で行く「くしはら温泉ささゆりの湯」会席料理▷とき=11月30日(日)まで(水曜日運休)▷料金=4,000円

●フォトコンテスト▷とき=平成27年1月31日(土)まで▷題材=①車窓から見た四季の風景②外から眺めた車両風景③懐かしいC12244号蒸気機関車の姿

●第2回かかしコンテスト▷とき=9月27日(土)~11月30日(日)

10月

●えなハヤシ御膳列車▷とき=8日(木)▷料金=4,000円

●歴女列車▷とき・料金=未定

11月

●明知鉄道まつり▷とき=15日(土)、16日(日)

●シクラメン列車▷とき・料金=未定

12月

●イノシシ鍋料理と花白温泉▷とき=3月31日(火)まで(月曜日運休)▷料金=5,000円

●じねんじょ列車▷とき=3月31日(火)まで(月曜日運休)▷料金=4,000円

●クリスマス列車▷とき=20日(土)▷料金=未定

※開催日や料金などでの未定な部分については、決まり次第、明知鉄道㈱のウェブサイトに掲載します

その他の催し

- 沿線ウォーキング「恵那水曜歩こう会」▷とき=各月1回▷内容=明知鉄道駅の途中駅から周辺を歩く
- 赤尾氏と歩く沿線▷とき=各月1回程度▷内容=赤尾製夫氏の案内で明知鉄道駅の途中駅から周辺を歩く

- 植樹祭▷とき=未定▷内容=野志駅、飯羽間駅、飯沼駅で植樹
- 明知線で行く「カップリング」列車▷とき・料金=未定
- 中京学院大学との連携事業「地域公開講座」列車▷とき・料金=未定



地域の人に愛される鉄道に

観光鉄道の側面が強い

明知鉄道は、料理列車の人気で観光鉄道としての側面が強まっています。観光鉄道としての利用を高めるためには、沿線の観光資源との連携強化をさらに深めることが必要です。ことしも沿線の花白温泉や、くしはら温泉ささゆりの湯と連携した催しや、観光施設巡り、駅から駅へのウォーキングなど、周りの資源を生かした催しをいくつも計画しています。



明知鉄道(株)専務
丸山 朝夫さん(三郷町)

観光鉄道として生きるには、増便することや、車両を更新することなど、いろんなことを考えなければなりません。現在、増便が難しいのは、明知鉄道が単線であるためです。途中、上りと下りの列車

知恵を絞り利用促進へ

観光鉄道として収益を上げることも必要ですが、明知鉄道の原点は地域の鉄道です。地域の人に愛される鉄道であることが大事です。沿線地域は、少子高齢化が進んでいます。あらかゆる知恵を絞って利用してもらえれば鉄道にしたいと思っています。現在は、高齢者を対象に、年間20000円の会員証を発行し、片道100円で乗車できるサービスを行っています。最近では、車両の前面に付けるヘッドマークを使い、特色を出しています。昨年は、沿線の地域をイメージしたヘッドマークを募集

車のすれ違いができるのは、岩村駅だけです。阿木駅で整備をすれば、すれ違いが可能となりますが、多額の整備費が必要となります。車両は、平成11年に導入した2両の車両が最も新しいものとなっています。計画では27年度に1両導入することになっていますが、型の古い現在の車両とは連結できないので、イベント列車としては利用しにくい状況にあります。



▲ヘッドマークで地域の催しを宣伝

し、地域の人に鉄道への愛着を深めてもらう機会としました。またヘッドマークは、地域の催しの告知や各駅の開業記念日の祝福などでも利用しています。平成20年に発足した「明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会」では、明知鉄道とバスを中心とした公共交通ネットワークの形成を目指し、利用促進やまちづくり、観光振興と連携した取り組みを行っています。また一昨年には「リニアまちづくり明知鉄道沿線住民委員会」も立ち上がっています。沿線の地域の皆さんには、地域の鉄道「明知鉄道」を応援していただいています。

沿線のスポット

①

腕木式信号機(岩村駅)

▶ホーム前の信号機



▶操作部

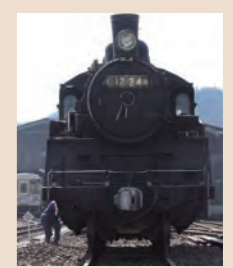
昭和9年から平成16年まで活躍した岩村駅の腕木式信号機。現在の信号機に切り替わった後、平成18年に再整備されました。操作部も岩村駅構内にあります。入場券や乗車券を購入された方が見学できます。

沿線のスポット

②

蒸気機関車(明智駅)

明智駅構内に設置されている蒸気機関車C12244号。明知線をはじめ、新潟県や愛知県でも活躍した機関車です。昭和48年に廃車になり、明智町に貸与されました。昨年12月には明智駅構内へ移動。入場券や乗車券を購入された方が見学できます。



▲駅の構内に設置されたC12244号

※腕木式信号機=ワイヤーで腕木と呼ばれる木片の角度を変えて、列車の「進行」と「停止」を切り替える信号機